



発行責任者
校長 初村 一郎

【校長室より】

『命令形の衰退』

新しい年を迎えました。が、年明け早々、全国で新型コロナウイルスが猛威を振るい、県内においても深刻な状況が続いています。五島市でも昨年7月以来の感染者、そしてクラスターが発生しています。今後も予断を許さない状況ですが、これまで以上に緊張感を持って情報の収集と見極めを行い、生徒たちの活動を支援していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今回は、こうした状況の中、ふと思ったことを述べてみたいと思います。

妙な遠慮はせず、たまには図々しくも厚かましくも手心を加えない瞬間が、無性に相手の心に響くときがある。ときどき先生方が、「～しろ!」「～せろ!」「～せんか!」といった言葉を発したときの生徒の反応を見て、ホッとするのは私だけなのか? 明らかに生徒の真剣さが違う。

ここ数年、家庭や学校で命令形の言葉がめっきり減って、丁寧な言葉遣いが当たり前になっている。「～するな!」ではなく、「～しないように!」といった呼びかけの形、つまり、命令や禁止の直接表現ではなく、間接表現が主流となっている。生徒の名前を呼ぶにしても、最近では男女を問わず「〇〇さん」と“さん付け”するのが正しくて、呼び捨てにするのは以ての外である。時代の流れを真摯に受け止め、子どもとの接し方を改めてきた結果であろう。

確かに、“ソーシャルディスタンス”を保つうえでは妥当な接し方かもしれないが、教育には“心のディスタンス”を加味しながら接していく使命がある。

言葉は時代とともに変わるものであるが、命令形が減った背景は何であろうか。これは、地震・雷・火事と並んで怖いものの四強であった親父をはじめ、強い者や怖い者の権威失墜も背景のひとつかもしれない。また、ジェンダー的な公正さや配慮、そして、優しさの時代。優しい言葉で納得させるに越したことはないのだが、それが自信のなさや遠慮に基づくのであれば問題である。

かつては、風呂や便所の掃除、玄関の整理、おつかいなど、子どもにも仕事があった。仕事をするには手順や注意は不可欠で、危険も伴うから指示は命令形が多かった。子どもの仕事がなくなったことも背景のひとつかもしれない。

人間として、しなければならないことを確実にさせ、してはならないことを絶対にさせないのは、しつけや教育の基本であり、身につけさせるためには強い言葉も必要である。

自衛隊や警察など緊急時の判断や対応が問われる組織ほど指揮命令系統がはっきりしているといわれる。いざというとき上司の命令に従わず議論ばかりしては命にかかわる。新聞記者の世界でも、若いうちは、紙面づくりに責任を持つデスクの命令は絶対だと教えられる。文句ばかりいって、締め切りに間に合わない。

このコロナ禍だからこそ、家庭においても、学校においても、ときには子どもたちへ命令形の情熱を注ぎ込んでいきたいと切に思う。

共通テスト出陣式 (1月15日)

3学年主任 本多 優子

1月15日(金)に、本校の軽スポーツ場で共通テスト出陣式が行われました。受験をする生徒のために1・2年生や先生方が折り鶴やメッセージを準備してくれたことを、3年生はとても喜んでいました。感謝致します。

出陣式では、校長先生や教頭先生から貴重なアドバイスをいただきました。また、生徒代表で決意表明をしてくれた3年5組の橋本武蔵君は、共通テストに向けてここまで頑張ってきた仲間に向けて士気を高める話をしてくれました。

試験当日は、ベストを尽くして頑張ってくれました。これまで支えてくださった方々、本当にありがとうございました。これからは来月行われる個別学力試験に向けて更に前に進んでいきます。



国公立大学個別試験に向けて

進路主任 渡辺 洋平

大学入学共通テストが終わり、3年普通コースの生徒たちは特別編成授業が始まりました。2月25日からの国公立大学個別学力試験の前期日程、3月8日の中期日程、3月12日の後期日程、または私立大学の試験等に向けてそれぞれが全力を尽くしています。試験場で立ち向かうのは一人ひとりの力ですが、そこにたどり着くまで、五島高校に集う全員の力を積み上げてほしいと願います。すでに進路が決まっている人も、全く違う道を歩もうとする人も、切磋琢磨し、本番では自信を持って臨めるようにしましょう。最後まで粘りきる力…それこそが五高生の強みです。

「Move forward」 頑張れ、五高生！



〈吹奏楽部〉 五島吹奏楽祭 開催

12月20日(日)に福江文化会館にて第41回五島吹奏楽祭を開催しました。五島市の小中高8校が集い、各校の演奏を披露しました。今年度は、新型コロナウイルスの流行により、毎年恒例となっていた出演者全員による合同演奏は中止となりましたが、各校の個性を生かしたステージで、会場は大いに盛り上がりました。音楽の素晴らしさを再認識したとの声もあり、今後も音楽の力で多くの人を笑顔にできるこの演奏会を続けていきたいと思えます。

また、本校吹奏楽部は現在11名で活動をしています。今の私たちにしかできない行事や演奏を試行錯誤しながら、多くの人に素敵な音楽を届ける活動を行っています。「日々笑進」という目標を掲げ、毎日笑顔でコツコツと練習に励んでいます。

なお、2月14日(日)中央公園市民体育館のサブアリーナで第34回定期演奏会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止とさせていただきます。次の吹奏楽のコンクールに向けて、日々練習に励んでいきたいと思えます。